一、責任を明らかにするために、資料の出所を記すことに努めた。
一、引用の資料等については、作者・筆者等の承諾を得ることが必要であると思うたものは、可能の範囲内において手続を尽した。不行届のものもあるであろうが許して戴きたい。
一、引用資料中、単に久門文書と略記したものは、原拠となったものを、編纂者が所有するものであることを示す。
一、写真又は図版の、特に作者名を記してないものは、すべて編纂者の作である。

附記1、本書の背文字及び扉の題字は、現市長村上徳太郎氏の執筆である。
2、序文及び発刊の辞の市長名はそれぞれ自署である。

目　次

第一編　地　誌

第一章　位　置……三
第二章　地形と地質……三
第三章　山岳と河川……七
第四章　海　岸……九
第五章　地下水……一〇
第六章　気　象……一〇
第七章　植　物……一二

第二編　沿　革

第一章　原始社会……二五
一、縄文式文化時代……二五
二、弥生式文化時代……二六
三、古墳時代……二三

第二章　古代社会……四〇
一、西條の地名……四〇
二、郡名と郷名……四五
三、伊曽乃神社……五二
第三章　封建前期社会……五六
一、鎌倉と西條……五六
二、西條庄……六四
三、南北朝時代……七八
四、室町時代……九二
保国寺
五、天正陣……一〇〇
第四章　封建後期社会……一一六
一、天正から寛永まで……一一六
朝鮮役
郷土武士の帰農
二、一柳時代……一二四
三、第二次西條藩……一三六
（徳川一門の家系）
四、維新前後の西條藩、小松藩……一六〇

勤王と佐幕
長州征伐と西條
西條藩領の区域と政治的区分
藩政時代の西條藩の職制
第五章　近代社会……一九四
一、幕府の滅亡……一九四
二、廃藩置県……一九七
三、県制度の推移……二〇〇
四、地方自治制の近代化……二〇四
五、西條町の成長……二〇八
六、飯岡村の治績……二一一
第六章　現代社会……二二五
一、西條市の誕生……二二五
市役所の機構
市会議員の選出
二、第二次世界大戦後の経過……二二四
三、氷見町分離問題……二二九
四、市、村合併の促進……二二九
五、市役所機構の整備……二二九

現在の市職制

第三編　行　政

第一章　財　政……二五五

一、貨幣制度……二五五

藩札

貨幣の統一

二、貢　租……二六〇

大保木の銀納問題

宝暦の百姓一揆

合力米

三、徴税制度の変遷……二七二

西條市の財政

納税貯蓄組合

税務署の変遷

第二章　教　育……二八二

一、西條藩学の興隆……二八二

擇善堂

私学

西條藩の学問系統

二、教育行政の変遷……二九〇

三、西條の育英事業……二九九

四、諸学校の興廃……三〇五

西條中学校

女子教育

氷見農工学校

農業教育

農業補習学校

青年訓練所

青年学校

西條実践女学校

五、戦後の義務教育……三一一

六、学制改革後の旧中等学校……三一六

七、職員団体に至る経緯……三一八

八、西條学舎……三二〇

九、幼児教育……三二一

一〇、社会教育……三二二

市立郷土博物館

図書館
公民館
自治会
ボーイスカウト
青年団
婦人会
成人教育
スポーツ
第三章　社会福祉……二四三
一、明治以前……二四三
医療
生活扶助
世相
善行者の表彰
敬老
薬用植物の栽培
二、明治以後制度の変遷……二五八
三、福祉三法……二六一
生活保護

児童福祉
身体障害者福祉
四、社会福祉の施設と制度……二七〇
施設
制度
五、戦没者遺族援護……二七三
六、失業対策事業……二七五
七、公共職業安定所……二七五
八、戦後の食糧危機突破……二七六
九、世界連邦平和都市宣言……二八〇
第四章　保健衛生……二八一
一、明治初年までの梗概……二八一
癩病と四国巡礼
医術と西條
二、明治以後の推移……二八五
三、出生と死亡……二八九
四、保健行政……二九二
五、医療機関その他……二九五
六、国民健康保険……二九六

社会保険
七、環境衛生……四九八
衛生施設
環境整備
八、上下水道……四〇一
上水道
下水道
第五章　土　木……四一〇
一、加茂川改修……四一〇
二、干　拓……四一八
概　説
近世の干拓
明治以降の開拓
三、荒廃防止……四二九
第六章　戸　口……四四〇
一、戸口調査……四四〇
二、人口動態……四四九
第七章　警　備……四五一
一、藩政時代の消防……四五一
二、消防組織の確立……四五四
三、警防団組織……四五五
四、消防団結成……四五九
五、水　防……四六二
加茂川
中山川
禎瑞海岸
西條市水防協議会
第八章　治　安……四七九
一、藩の制度……四七九
二、幕府の巡見……四八一
三、治安警察……四八三
四、米騒動……四八四
五、警察行政の複雑化……四八六
六、戦後の警察……四八七
七、防犯対策……四九〇
八、裁判所その他……四九一
九、刑務所……四九二
第九章　国　防……四九三

一、鎖　国……四九三
二、沿海測量……四九五
三、アメリカの渡来……四九八
四、明治のはじめ……五〇〇
五、西南事変……五〇一
六、日清戦争……五〇二
七、日露戦争……五〇四
八、帝国在郷軍人会……五〇八
九、万国平和会議……五〇九
一〇、大正時代……五一〇
一一、満州事変から支那事変へ……五一一
一二、大政翼賛会の結成……五一四
一三、太平洋戦争……五一五
一四、公職追放……五一五
一五、戦没者遺族問題……五一六
第十章　広　報……五一八
広報と部落自治
第十一章　労働問題……五二三
一、全国的活動と西條……五二三

二、労働組合の現況……五四三
三、職業紹介……五四四
第十二章　選　挙……五四六
一、国会と政権の動き……五四六
二、県　会……五六二
三、市　議　会……五六五
第四編　産　業
第一章　農　業……五六九
一、土地制度の変遷……五六九
明治以前
明治の制度
地主と小作
農地改革
二、農業水利……六〇四
加茂川水利
中山川水利
用水池
三、耕地整理……六三六

四、南海地震……六三七
五、畜産……六四二
六、養蚕……六四九
七、産業組合から農業協同組合へ……六五一
八、農業共済組合……六五七
九、農山漁村振興特別事業……六六〇
一〇、海外移住……六六二
第二章　林業……六六六
一、鎌倉時代……六六六
二、社寺有林の保護……六六七
三、京都大仏殿の造営と石鎚山……六六八
四、江戸時代の林政……六七一
五、明治以後の林業……六八二
第三章　水産……七〇一
一、西條藩の漁業区域……七〇一
二、対支貿易と西條藩……七〇四
三、幕府へ献上の塩辛……七〇五
四、近代の水産業……七〇八
海面漁業

水産奨励の機関
淡水漁業
水産業の前途
五、塩業……七一四
第四章　工業……七一七
一、製紙……七一七
二、織物……七二一
三、捺染……七二三
四、倉敷レイヨン株式会社……七二三
五、工場誘致問題の経過……七二八
六、工業用水問題(一)……七二九
七、工都「西條」の計画成る……七四二
八、工業用水問題(二)……七四三
九、工都計画再発足……七四七
一〇、電気事業……七五四
西條水力電気株式会社
日本発送電株式会社
住友共同電力株式会社
伊豫変電所

一一、工場廃液問題……七六二
一二、工業形態……七六三
第五章　商　業……七六七
一、商業のはじめ……七六七
二、商業保護……七六九
三、密貿易取締……七七四
四、西條の商業規模……七七五
五、酒造業……七七八
六、金　融……七八一
七、第二次世界大戦から戦後へ……七九〇
八、商工会議所……七九三
第六章　鉱　業……七九五
一、市之川鉱山……七九五
二、銅　山……七九九
三、煙害事件……八〇〇
第七章　交　通……八一
一、江戸時代まで……八一
二、江戸時代……八一四
三、近　代……八二三

国　道
県　道
市　道
石鎚スカイライン
高速道路計画その他
鉄　道
バ　ス
四、海路のむかし……八五一
五、西條港の改修……八五八
第八章　通　信……八六三
一、明治維新まで……八六三
二、通信制度の変遷……八六四
三、日本放送協会……八七一
第五編　宗　教
第一章　神　道……八七五
一、神　社……八七五
二、神道系宗教諸派……八九六
第二章　仏　教……九〇〇

一、仏教の伝来……九〇〇
二、仏教伊豫に伝えられる……九〇一
三、仏教の諸派……九〇三
四、民衆と仏教……九一一
五、廃　寺……九二五
六、石鎚山と宗教……九二六
七、神仏分離……九三一
八、仏教系新興宗教……九四一
第三章　神社寺院の整備……九四一
第四章　キリスト教……九四三

第六編　その他の文化

第一章　学問・諸芸……九五一
一、工　芸……九五一
刀匠
金工
彫刻家
画家
二、典　籍……九五八

三、医　学……九六〇
四、言　語……九六二
五、指定された文化財……九六三
国指定文化財
県指定文化財
市指定文化財
六、その他注目すべきもの……九七三
七、伝　説　地……九八六
八、そ　の　他……九九一
第二章　観　光……九九五
山の理念
将来への希望

第七編　民　俗

第一章　婚儀と葬儀……一〇〇七
第二章　年中行事……一〇〇八
第三章　風俗と娯楽……一〇二九
第四章　民衆の生活……一〇三八

第八編　災害……一〇五七
第九編　年表……一〇六七

写真図版

（索引の便宜上写真説明とは一致しないものがある）

1 西條の地勢図……三
2 西條市地形の模型……四
3 市倉付近の地形……三五
4 市倉付近地図……三六
5 市倉から出土の縄文式土器破片……三七
6 西大塚の平面図……三五
7 西大塚両壁及び天井構造……三六
8 諏訪山古墳平面図……三七
9 同　玄室内部構造……三八
10 舟形芳ケ内ケールン式古墳平面図……三九
11 早川出土の和鏡……三九
12 古代の地形を推定する……四一
13 条里制の跡と推定される地区図（飯岡）……四二
14 土橋より辻ケ峯を望む……四七
15 四本堂跡より黒森を望む……四八
16 経塚の現状……五〇
17 伊曽乃神社から石鎚山頂を仰ぐ……五一
18 御所神社……五三
19 石湯八幡宮……五四
20 源実朝の供養塔……五九
21 本覚尼自筆の置文……六六
22 鎌倉覚園寺文書……七一
23 熊野新宮文書……七三
24 河野通盛の寄進状……七三
25 足利義満の寄附状……七四
26 細川勝久の文書……七六
27 福武山の陣想定図……八三
28 河野三代関係地図……八五
29 保国寺の禁制……八六
30 細川頼有の禁制……八七
31 石川虎武の禁制……九五
32 仏通禅師六五〇年忌法要……九六

33 足利尊氏の教書……九六
34 保国寺庭園……九七
35 細川満之の書……九八
36 天正陣関係地図……一〇八
37 里城跡から高尾を望む……一〇九
38 吉川元長の書状……一一一
39 金子備後守墓……一一三
40 千人塚……一一三
41 高峠全景……一一三
42 高峠の水……一一四
43 大庄屋の家……一一三
44 一柳直盛の墓……一一六
45 開町当時の西條……一一八
46 一柳直重の墓……一二〇
47 霊雲院殿の堂……一二〇
48 霊雲院殿の碑……一二一
49 一柳直興時代の田畑調書……一二一
50 忠烈四士の墓……一二二
51 一柳直興の墓……一二五
52 幕領時代の年貢割付書……一三六
53 同　受命書……一三七
54 松平頼純の父母状……一三七
55 寛文十年の年貢定書……一三八
56 天和二年の制札……一三八
57 徳川頼宣の墓……一三九
58 松平頼純の墓……一三九
59 松平頼純の画……一三九
60 高田の馬場果合の記録……一四〇
61 松平家に祀る日蓮像……一四〇
62 正徳三年の検地帳……一四一
63 徳川宗直の墓……一四一
64 徳川宗直墓所の灯籠……一四一
65 山井崑崙の墓……一四二
66 伝書に見える剣道系脈……一四四
67 徳川治貞の墓……一四五
68 細井平洲の書……一四六
69 童子訓……一四六
70 武鑑に見る西條藩……一四七

71 擇善堂の額……一四八
72 伊能忠敬の沿海測量記録……一四九
73 加藤武丈の書状……一四九
74 領分界の標石 (一)……一五〇
75 同　(二)……一五〇
76 松平頼学入国の船（二葉）……一五一
77 藩主入国につき老中よりの書面……一五一
78 松平頼学の書……一五一
79 幕末頃の藩邸図……一五二
80 士族長屋……一五二
81 七聊落の図……一六一
82 木村力山の墓……一六二
83 森田節斎の邸跡……一六二
74 加茂百十の書……一六六
85 妻木恰の墓……一六六
86 松永喜代吉の墓……一六七
87 三浦安の書……一六七
88 佐波兼明の墓……一六八
89 徳川茂承の墓所……一六九
90 村役人の印鑑……一七五
91 巡見使案内者所持の扇……一七六
92 西條領東端の道標……一九一
93 広島屋系図……一九三
94 石鉄県置かれる……二〇〇
95 小区長辞令……二〇一
96 明治初年の村役場……二〇四
97 和田義綱の墓……二〇五
98 十河信二の書……二二五
99 西條吉井境界図……二三六
100 西條吉井境界……二三七
101 西條大保木合併記念碑の除幕式……二三四
102 支所廃止反対運動……二四〇
103 藩札……二五四
104 広島屋の両替用度品……二五五
105 義民工藤治兵衛の堂……二六八
106 銀納義民三百年祭式典……二六八
107 冥加金領収書……二六九
108 又野神社……二七〇

109 七経孟子考文……二八二
110 菅中山の手紙……二八五
111 塩出朝香の書……二八六
112 山陽から力山への送別詩……二八八
113 日野醸泉の書……二八八
114 日野三楽の碑……二八九
115 新名寒川の墓……二八九
116 山井崑崙の筆跡……二九〇
117 擇善学校の卒業証書……二九四
118 明治時代の西條高等小学校……二九八
119 愛媛県立西條中学校……三〇五
120 雪に埋る今宮分校……三一六
121 動務評定を論じた印刷物……三一九
122 日教組反対運動……三二〇
123 西條藩邸図書印……三二七
124 ボーイスカウト……三三〇
125 中堅青年講習会……三三一
126 田宮流の演武と伝書（二葉）……三三六
127 西條市体育館……三三七
128 全国高校野球大会優勝……三四〇
129 国民体育大会野球優勝……三四一
130 行路死亡人の墓……三四八
131 上下着用免許書……三五一
132 善行者の表彰……三五二
133 松尾フデの貞節……三五三
134 幕府採薬使記録……三五五
135 矢野快庵の医書……三八四
136 新居郡公立病院……三八五
137 塵芥焼却場……三九九
138 衛生功労者表彰状……四〇三
139 堀之内上水道竣工記念碑……四〇四
140 打抜井を利用した施設（二葉）……四〇七
141 陣屋の濠で魚を獲る……四〇八
142 陣屋の濠に咲く蓮……四〇九
143 足立重信の墓……四一一
144 加茂川改修関係記録……四一三
145 入江常真遺跡の碑……四一三
146 入江城趾……四一四

147 木村信近の墓……四一五
148 荒瀬重孝夫妻の墓……四二六
149 南蛮樋……四二八
150 嘉母神社……四三〇
151 天皇陛下西條干拓ご視察……四三三
152 西條干拓礎石投入式……四三六
153 干拓堤防の外側を行く……四三八
154 氏子札……四四三
155 明和時代の消防と水防……四五二
156 文久時代の消防態勢……四五三
157 明治時代の消防出初式……四五四
158 警防団結成さる……四五五
159 消防殉職者招魂碑除幕式……四六一
160 寛政年間の水防計画……四六一
161 加茂川下流のかすみ堤……四六九
162 禎瑞罹災戒心の碑……四七四
163 御成敗式目……四七八
164 巡見使廻国注意書……四八二
165 犯罪「0」の日運動……四八九
166 国防地図の作成……四九六
167 伊能忠敬作製の地図……四九七
168 北海小文典……四九七
169 農兵の教練書……四九八
170 西南・日清・日露戦役記念碑……五〇七
171 伊曽乃神社で戦勝祈願……五一三
172 献納された軍用飛行機……五一三
173 菅船長の記念碑……五一七
174 西條翼賛壮年団……五一七
175 関中佐の戦果を報じた新聞……五二〇
176 内地の防禦態勢……五二三
177 西條市民散華の跡……五二四
178 戦没者遺族を慰問される天皇陛下……五二六
179 五人組帳……五二九
180 地券……五七六
181 猟車……五八五
182 松平家世襲財産編入通知……五九三
183 加茂川左岸の地形……六〇五
184 血判した連判状……六一一
185 福武・大町二堰並設の図……六一五

186 松木不求の墓……六一五
187 釜之口の碑……六一六
188 水利、干拓功労者慰霊祭……六一八
189 釜之口堰改修工事……六二二
190 八堂山下の用水路……六二三
191 福武・大町の分水……六二三
192 嘉永二年又助堰和談書……六二〇
193 又助堰事件大審院判決……六三一
194 又助堰の現況……六二二
195 禎瑞の客土事業……六四一
196 禎瑞客土保安隊員の協力……六四二
197 鶯谷の開田記念碑……六五〇
198 土場に積まれた寸太木……六七三
199 楮皮の採取……六七七
200 西條営林署の苗畑……六八五
201 木材の搬出……六八七
202 氷見町有林記念碑……六九一
203 袖戸土工保護森林組合長の印章……六九三
204 木材市場……六九四
205 椎茸栽培組合……六九四
206 森林火災に自衛隊出動……六九六
207 船屋沖の潮干狩……七一〇
208 海苔の養殖……七一三
209 海苔の製造……七一四
210 禎瑞川狩……七一三
211 小松塩業会社……七一六
212 神拝の製紙業……七一八
213 捺染されているプリント柄……七二二
214 倉敷レイヨン捲糸工程……七二四
215 西條平野の地下水……七四四
216 西條の水系……七四六
217 新産業都市建設促進大会……七四九
218 東豫新産業都市指定……七五〇
219 黒瀬部落の景……七五一
220 伊豫変電所完成す……七六二
221 西條中心地域の様相……七七五
222 市役所前の掲示……七七七
223 本陣川川口の製錬所……七九七
224 輝安鉱の大結晶……七九八
225 県境の基安鉱山……八〇〇
226 天保六年藩主入国記録……八一五

227 天保時代の市塚港……八一五
228 遊行上人廻國記録……八一七
229 道標の一例……八二一
230 明治初年の旅行手形……八二三
231 加茂川渡船願書……八二四
232 加茂川渡場の常夜燈……八二五
233 加茂川橋開通式……八二六
234 国道二線の交差点……八二七
235 神拝天満宮の鰐口……八二八
236 足谷の観音堂……八二八
237 安居霊社……八二九
238 野口保八幡宮鰐口の刻銘……八二九
239 道路開設の必要……八三一
240 寒風山トンネル完工式……八三八
241 磯浦海岸の旧態……八三九
242 元の街道筋……八四三
243 らんかん橋……八四四
244 那木橋……八四四
245 伊豫西條駅開通式……八四七
246 十河国鉄総裁を迎える……八四八
247 明治時代の西條港……八五五
248 天保時代のお台場……八五五
249 人力車で海を渡る……八五六
250 回漕店の受取書……八五六
251 西條港の近況……八六〇
252 逓送切手……八六五
253 カラーテレビの普及……八七一
254 伊曽乃神社絵図……八七六
255 伊曽乃神社神号額面……八七七
256 松平頼純の寄進状……八七七
257 伊曽乃神社神幸祭……八七八
258 石岡神社の社叢……八七九
259 原八幡神社の社号石……八八〇
260 黒川道軌の書翰……八八〇
261 諏訪神社の参道……八八四
262 とくしげの地名……八八四
263 祇園信仰……八八六
264 石鎚山頂に祈る……八八八

265 鉄の鎖を登る行者……八八九
266 今磯野神社祈雨祭神札……八八九
267 西條神社神額……八九三
268 真導寺の古瓦……九〇一
269 薬師寺の古瓦……九〇三
270 吉祥寺の慈母観音像……九〇四
271 岡林寺のえんま大王……九〇五
272 牛王の版木……九〇六
273 密元の墓……九〇六
274 石鉄大権現という燈籠……九〇八
275 前神寺独一の書……九〇八
276 二本桧……九〇九
277 極楽寺本堂……九一〇
278 真導寺の額……九一四
279 遊行上人廻国記録（二葉）……九一三
280 秋都庵の扁額……九一四
281 泉法寺跡から瓶ケ森遠望……九一六
282 泉法寺という地名……九一六
283 日本霊異記（二葉）……九一七
284 前神寺……九一九
285 柴燈護摩祈禱……九二〇
286 切支丹制禁の高札……九二五
287 日本刀展覧会賞状……九二三
288 正阿弥家種の作銘……九二五
289 伊藤五百亀の作品……九二五
290 若原峯崖作品例……九二六
291 小林西崖筆鷲之図……九二七
292 三宅皆山の画……九二七
293 高秋田の画……九二八
294 川上孤山の筆蹟……九二八
295 西條誌……九二〇
296 真鍋嘉一郎の書……九六一
297 豫州新居系図（二葉）……九六四
298 王至森寺のきんもくせい……九六五
299 仏通禅師の像……九六六
300 土居構跡……九六七
301 かぶとがに……九六八
302 天満神社のクス……九六九

303 神田の大ガキ……九六九
304 ギンモクセイ……九六九
305 緋寒桜……九七〇
306 禎祥庵の大藤……九七〇
307 高外木城趾……九七一
308 高尾城趾からの展望……九七一
309 西條陣屋の古図……九七一
310 博物館の収蔵品……九七二
311 伊曽乃祭礼絵巻物（六葉）……九七三―九七四
312 だんじり……九七五
313 みこしだんじり……九七五
314 太鼓台……九七五
315 鬼頭の面……九七六
316 丸山焼……九七六
317 たらよう……九七七
318 市之川礫岩……九七八
319 前神寺の板像……九七八
320 前神寺の鐘……九七九
321 描かれた西條（二葉）……九八一
322 黒瀬の甌穴群……九八二
323 仏崎の化石……九八二
324 石槨千亦の歌碑……九八三
325 虚子の句碑……九八六
326 長忌寸意吉麻呂の歌碑……九八八
327 石鎚神の投石……九八九
328 うすぐも姫の墓……九九〇
329 風透の風穴……九九一
330 文化財保護委員の活動……九九三
331 西條人と南極……九九四
332 石鎚国定公園地図……九九八
333 牧野富太郎の書……九九九
334 瓶ケ森より石鎚山を望む……一〇〇〇
335 瓶ケ森登山口……一〇〇一
336 笹ケ峯……一〇〇三
337 笹ケ峯スキー場への入口……一〇〇四
338 提燈箱……一〇〇七
339 農家のしぞめはん……一〇一一
340 おはんにゃはん……一〇一七

341 精霊棚……一〇一九
342 つまみだのもはん……一〇一〇
343 塞の神……一〇一一
344 前神寺の芝居小屋……一〇一一
345 伊曽乃祭の相撲……一〇一一
346 三代目高砂浦五郎碑……一〇一五
347 黒瀬の笹踊……一〇一六
348 寛文一〇年の倹約令……一〇二〇
349 開化旧弊見立絵図……一〇二〇
350 自転車競走……一〇二〇
351 衣料切符……一〇二一
352 延享の水害報告書……一〇五八
353 水難除祈禱の神礼……一〇五九
354 降雹の被害……一〇六一
355 室戸台風の被害……一〇六三
356 高潮被害の復旧工事……一〇六四

第一編　地　誌